

---

# ダーウィンのいない世界

黄黒真直

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ダーウィンのいない世界

### 【Nコード】

N7993X

### 【作者名】

黄黒真直

### 【あらすじ】

人類が初めて宇宙生物（地球外生命体）を発見してから、50年が過ぎた。この半世紀の間に、人類はどんな宇宙生物を発見したのか？ いままで意外に明かされてこなかったその異様な生態を、宇宙生物学の最先端で活躍する女性科学者コレット・R・ダイヤモンドが著す。

序文（前書き）

我が愛する娘エツダに

## 序文

地球の皆さん、初めまして。私はいま、火星のマーシャルノーズ研究所で、この原稿を書いています。

木星の衛星ガニメデで、人類が初めて宇宙生物、すなわち地球外生命体を発見したのは、いまからおよそ50年前。そしてそれ以降、人類は次々と新たな生物を発見していきました。

最初の10年は、ガニメデで100種類以上に及ぶ生物を。そして以降は、太陽系の外でも次々と新しい生物が発見されていきました。

ガニメデで発見された最初の宇宙生物ジューリック(jouliic)は、当時の人々にとってはまさに奇怪な生物でした。

地球のカタツムリに似た形状をしており、カタツムリの殻に相当する部分の直径は1mm程度。そこに無数に生えた微細な毛で、水中を泳ぎ回っていました。泳ぎ回る、というよりは、掘り進む、と言った方が適切かも知れません。ジューリックは、殻を発熱させることで氷を融かし、その中を進んでいたのです。

ジューリックは、ガニメデの地中深くに住んでいます。ガニメデの大地は氷で出来ており、その中には、わずかながら硫化鉄が含まれています。彼らは、それを食べて生きていたのです。

ジューリックの発見により、宇宙は私達地球生命体だけの物ではないことが、証明されました。また同時に、私達は決して特別な存在ではないこと、そして孤独な存在でもないことが、証明されたのです。

宇宙生物の研究は、日を追うごとに過熱しています。生物の存在する星をひとつ見つけることは、同時に、数千、数万種類もの新種

を一度に発見することに等しいからです。その膨大な数の新種たちを、私達は毎日調べています。

日々更新される宇宙生物図鑑。私は、地球の皆さんにその一端をご紹介し、少しでも宇宙生物を身近に感じていただきたいと思い、本書を執筆しました。

本書のために自身の研究結果をご提供下さったニコラス・バロウ様、各惑星の地質学の知識をご教授下さったサラ・ホーガン様、私が執筆している間に研究を肩代わりして下さいました上司・同僚の皆様、多大なる感謝を捧げます。

コレット・R・ダイヤモンド

21XX年15月 火星、北ヴァージニア大陸にて

私達人間には、男と女がいます。地球上のほとんどの生物も、オスとメスの2つの性別があるか、あるいは性別が無いかの、どちらかです。ヘリアン系第4惑星アルゴニーで生物が発見されるまで、私達はみな、「生物の性別は、2種類までだ」と思い込んでいました。実際、それまでに発見されていた宇宙生物の性別は、0か、1か、2の、いずれかだったのです。

ところが、アルゴニーで発見されたオービックテイルとマウスは、その記録を上回る生物でした。彼らには、性別が3つ、存在するのです。

まず、オービックテイルからご紹介しましょう。

オービックテイルは、野球ボールより少し大きいくらいのサイズの虫です。最初に発見されたものは、大きさが8cm程度のものでした。のちの研究で、このサイズが大人のサイズであることがわかりました。全体的に丸い体をしており、体中に短く茶色い毛がびっしり生えています。クモのような長くて細い4本の足を動かし、緑色の葉っぱ（アルゴニーの植物は、地球と同じく緑色をしています）の上を走り回っていました。その頭には、3つの黒い目があります。3つの目のうち、左右の2つは私達と同じ可視光線を、真ん中のひとつは紫外線を見ていることが、最近の研究でわかりました。また口は、皮膚が伸びることで、自分の体と同じくらいの大さにまで広げることが出来ます。非常にすばしく、また獰猛で、虫でも植物でも、口に入るサイズのものは何でも食べてしまいます。オービックテイルの内臓は、たいていの物は消化・吸収出来てしまうようなのです。

そして最も目を引くのが、名前の由来にもなっている、尻尾のよ  
うな部分です。丸いからだの後ろが先細りとなり、その先端にまた  
小さな球がついているのです。この球は何のためにあるのか、発見  
後しばらく謎でした。攻撃に使う様子も、防御に使う様子も、全く  
無いからです。最初は何かの感覚器官ではないかと考えましたが、  
それは間違いでした。この球は、生殖器の一種だったのです。

早速出て来ましたね、生殖器。この生殖器は繁殖期にしか現れな  
いのですが、偶然にも、最初に発見したのが繁殖期だったため、名  
前の由来となりました。

一方、その数カ月後に、オービックテイルとよく似た、しかしサ  
イズが2〜3cmの小さな虫が、十数匹の集団で発見されました。  
地面に落ちていた植物の種に群がって、齧っていたのです。初めは  
子どもだと考えられましたが、観察の結果、これで大人だと判明し  
ました。オスとの違いは、サイズのほか、目の数と口の大きさがあ  
ります。目は2つしかありません。オスにあつた紫外線を見る目が、  
存在しないのです。また口は小さくて硬く、植物の種などを削るよ  
うに食べます。発見されたのが繁殖期ではなかったため、尻尾と、  
その先端の球もありませんでした。もちろん、繁殖期になれば、尻  
尾と球は現れます。

私達は、先に発見された体の大きなオービックテイルを「オス」  
と考え、あとに発見された小さな方を「メス」と考えました。

ここで、「オス」と「メス」の定義を、はっきりさせておきまし  
よう。地球生物であれば、精子を作る方がオス、卵子を作る方がメ  
スです。活発に動き回る精子が、ほとんど動かない卵子に結合する  
ことで受精し、受精卵となります。

宇宙生物学では、この定義は使えなくなります。精子がほとんど動かなかつたり、卵子が活発に動き回つたりする生物が、たくさん発見されたからです。そこで宇宙生物学では、性別を決めるに当たり、次の2つの条件を設けました。

1つめ。妊娠したり、卵を産んだりする方がメス、そうでない方がオス。

2つめ。2つの生殖細胞のうち、大きな生殖細胞を作る方がメス、小さな生殖細胞を作る方がオス。

この2つめの条件は、1つめの条件で決定できない場合に適用されます。例えば、互いに生殖細胞を体の外に出し、それを受精させ、そのまま外に放置する場合は、1つめの条件では決定できません。どちらも妊娠せず、卵も産まないからです。また、2つめの条件でも決定できない場合があります。全ての生殖細胞が、全く同じ大きさ・形状の場合や、そもそも生殖細胞を作らない場合です。この場合は、「有性生殖はするが、性別は1つ」と考えることにしました。

では、オービクテイルの場合は、どうでしょう。

例の尻尾は、最初のオービクテイル発見から数日後に、突如消えてしまいました。そこで、これは生殖器官なのではないかと、私達は当たりをつけました。つまり、繁殖期にのみ尻尾が現れ、それ以外の期間では体内に格納してしまうのではないかと考えたのです。もしそうなら、アルゴニーでの1年後に、再び尻尾が現れるはずです。

アルゴニーでの1年が経過すると、予想通り、尻尾が現れました。そこで私達は、これが生殖器官であることを確定させるため、何匹かの尻尾を切り開いてその内部を調べてみました。結果、内部からは生殖細胞が無数に出て来ました。先に発見された体の大きなオービックテイルからは大きな生殖細胞が、後に発見された体の小さなオービックテイルからは小さな生殖細胞が、それぞれ出て来ました。よって私達は、大きい方をオス、小さい方をメス、と決定したのです。

どうして出てきた細胞が、生殖細胞だとわかったのか、疑問に思うかもしれませんが、でもそれは、難しいことはありません。遺伝子の数を調べれば良いのです。

生殖細胞は、生殖細胞以外の細胞（これを体細胞と言います）に比べ、遺伝子の数が半分になっています。オスとメス、両方の生殖細胞が合わさることで、遺伝子の個数が体細胞の遺伝子の個数と等しくなるわけです。オービックテイルの尻尾から出てきた細胞も、遺伝子の数が体細胞のそれよりも少なかったのです。

ですが、少なすぎました。

オービックテイルの生殖細胞には、体細胞の3分の1の遺伝子しかなかったのです。初めは、解剖の途中で何かミスをしたのだと思いました。しかし何度調べても、やっぱり3分の1の遺伝子しか出てきません。

いったい、何故なのか。後になって考えてみれば、どうしてこんな簡単なことがわからなかったのか、不思議に思いますが、私達は何ヶ月もこの問題に頭を悩ませていました。「性別は2つまでしかない」という固定観念に、支配されていたのです。そのため、「受

精後、遺伝子がさらに増えるのではないか」とか、「体細胞の遺伝子には、同じ遺伝子がいくつもあるのではないか」とか、様々な説が飛び交いましたが、結局、そのどれもが異なることがわかりました。

答えがわかったのは、最初のオービックテイルが発見されてから、アルゴニーでの1年が経ったときでした。再びめぐってきたオービックテイルの繁殖の時期、私達はある奇怪な生物を発見しました。一見するとオービックテイルなのですが、体が倍近く“長い”のです。

オービックテイルは、ほぼ丸い形をしていました。生殖器が無ければ、上から見たときの形は円盤状です。それが、虫眼鏡のような形となり、4本の足で元気に走り回っていたのです。「オス」と同様に3つの目と大きな口を持ち、虫も植物も食べてしまいます。そして本来生殖器がある場所に、オービックテイルと同じくらいのサイズの、小さな円筒状のものが付いていたのです。その部分には、茶色い毛も生えていません。

口の反対側、お尻の方には、茶色い毛に包まれた小さな球が付いていました。そしてよく見るとそれは、目と足を失った「メス」のオービックテイルだったのです。

つまり、「オス」のオービックテイルと「メス」のオービックテイルが、円筒状の物で繋がっていたのです。ただし、どうやら「メス」の方は、生きている様子はありませんでした。目も足も失っていましたし、口もなくなっていたのです。ただ胴体が付いているだけでした。

いったい、何が起こったのでしょうか。観察を続けるうちに、私

達は気が付きました。

「この円筒状の部分は、マウスに似ている」と。

ようやく、マウズの登場です。マウスとは、オービックテイルが発見される1ヶ月ほど前に発見されていた、大人しい虫です。体長は3cmほどで、円筒形の体に小さな丸い足を付け、のそのそと歩き回ります。短いイモムシを想像してくだされば、良いでしょう。灰色の体には、目も耳もなく、代わりに、無数の小さな穴が空いています。この穴が「鼻」の役割をして、周囲の情報を得ているようなのです。さらに、体の前後には、それぞれ1つずつ「口」が存在します。最初に発見されたマウスは、この前後2つの口で、せつせと葉っぱを齧っていました。

あまりにもオービックテイルと形が異なるため、のちにオービックテイルが発見されても、まさか同じ生物だとは誰も思いませんでした。ところがこのマウスこそが、オービックテイルの第3の性だったのです。

円筒部分がマウスに似ていると気付くや否や、私達はすぐに、オービックテイルの「オス」と「メス」、そしてマウスを、ひとつのケースで飼育しました。

結果は、ビンゴでした。

まず、オスとメスが近付き、求愛行動を始めました。互いに体をこすり合わせ、相手の生殖器を観察するのです。2匹はその後、しばらく体をこすり合わせ続けました。

するとそこに、マウスが近付いて行ったのです。どうやら、体を

こすり合わせることで、フェルモンのような物質を生み出しているらしいのです。マウスはその匂いを感じ取り、2匹の元へ向かいました。

そしてマウスは、その2つの口で、オスとメスの生殖器をくわえたのです。

こうして、私達が発見した、奇怪な生物が誕生しました。虫眼鏡状のオービックテイルです。結合直後は、メスもまだ元気ですが、次第に衰え、目と足と口がなくなってしまうます。また、マウスの口も2匹に固着し、決して離れないようになります。

見た目だけではなく、中身も変化します。メスの体内からは消化器官が消え、オスが摂取した栄養を、マウスを介して吸収するようになります。

またオスの体内からは、心臓が消えます。その役割は、メスが担うのです。メスは消化器官が消えたことで空いたスペースを、心臓で埋めます。巨大な心臓が、オスの体内にまで血液を送ります。一方、オスの体内では消化器官が発達し、これまでよりもさらに多くの種類のものを消化・吸収できるようにします。

ところで、肝心の生殖活動は、どうなっているのでしょうか。その秘密は、マウスが握っています。

メスの体内から消化器官が消えたのと同様、マウズの体内でも消化器官が消えます。そしてその空いたスペースに、子宮が出来るのです。オスとメス、そしてマウス自身の生殖細胞が、そこで結合し、受精卵を作り、成長するのです。

何故、このような不思議な生態を持つようになったのでしょうか。その理由はまだ解明されていませんが、私達は次のように考えています。

もともとオービックテイルは、他の生物同様、2種類の性しか持っていないませんでした。そしてオービックテイルは、マウズの体内に卵を産み付ける寄生生物だったのです。ところが、逆にそれを利用するマウズが現れました。体内に産み付けられた卵に、自分の遺伝子を入れ、それを育ててしまふマウズです。いわば、寄生生物に、寄生し返したのです。その結果、そのマウズの体内からは、オービックテイルとマウズの両方が、それぞれ不完全な形で誕生することとなりました。滅茶苦茶な遺伝子を受け継いだのですから、当然です。そんなことが何世代も繰り返されるうちに、現在のよう形になったのではないか。私達はそう考えています。

この説が正しいかどうかは、まだわかっていません。これを証明するためには、オービックテイルとマウズ、そしてアルゴニーの生物達の遺伝子情報を調べれば良いだろうと考えています。進化の枝分かれの中で、近い生物同士は似通った遺伝子情報を持っています。もしオービックテイルとマウズの遺伝子情報が、他の生物よりも離れていれば、この2種類は元々別の生物だったと考えられます。逆に、もし似通った遺伝子情報を持っていたら、上の説は否定されるべきです。

どちらにせよ、現状彼らの性が3つあることに違いはありません。では、この3種類の性は、なんと呼び分けるべきでしょうか。私達は、最初に発見したオービックテイルを「オス」、後に発見したオービックテイルを「メス」と呼び、残りの1つの性を「マウ(mou)」と呼んでいます。

しかし、この命名は実は適切ではないことに、お気づきでしょうか。そう、もともと私達は、「妊娠する方をメス」と定義していたのです。ですが、彼らの中で妊娠するのは「マウ」です。そこで私達は、性別を決める第1の定義は、もはや使えない、捨てるべきものだと主張しています。まだ一般的に受け入れられている考え方はありませんが、今後いくつもの性別を持つ宇宙生物が発見されていけば、性別の定義は大きく変わっていくでしょう。それがどのように変わっていくかは、私にはとても想像できません。

さて、あと少しだけ、オービックテイルとマウズの観察を続けましょう。

いまやオービックテイルのオスとメス、そしてマウズは結合し、あなたも1匹のオービックテイルのようになっていきます。事実、この体は死ぬまで3つに分かれることはありません。

オービックテイル（及びマウズ）の妊娠期間は、約10日です。その頃になると、マウズの体が大きく膨らみ、今にも破裂しそうになります。

そして、破裂します。

マウズの体には、鼻に相当する無数の穴が空いていました。小さな子ども達は、その穴を食い破り、マウズの体内からわらわらと出てくるのです。

当然、こうなってしまうえば、マウズの体はボロボロになり、子ども達が出て行った後は残骸しか残りません。オービックテイルのオスとメスは、互いの体を繋ぐパイプを失い、メスは地面に落ちます。口の無いメスは栄養を摂ることが出来ず、やがて死んでしまします。

またオスも、心臓が無いため、すぐに死んでしまいます。

300匹を超える子ども達は、生まれたときから、オス、メス、そしてマウに分かれています。その比率は、1:1:1です。小さなオスの頭には目が3つあり、メスには2つ。そしてマウスは、丸い体でのそのそと歩き回ります。

彼らの寿命は、アルゴニー時間で約5年。しかし、2年ほどで大人になり、大人になった子ども達のほとんどは、その年のうちに死んでしまいます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7993x/>

---

ダーウィンのいない世界

2011年10月21日23時11分発行